



みんなの 文化財図鑑

埋蔵文化財編



おきなわの文化財にふれてみよう!

沖縄県教育委員会

みんなの 文化財図鑑

埋蔵文化財編

まえがき

『みんなの文化財図鑑』は、県内に所在する279件の国指定文化財(国登録文化財等含む)、270件の県指定文化財(選択文化財等含む)、981件の市町村指定文化財(市町村登録文化財含む)、及び埋蔵文化財について、その概要を紹介する手引書として、分野別に刊行するものです。

人類の活動が行われた痕跡が残る場所を遺跡と言います。遺跡は先人が営んできた生活の証であり、国民共有の歴史的財産です。これらの遺跡は、地中や水中に埋もれていることが多く、このことが埋蔵文化財と呼ばれる所以となっています。

沖縄県では沖縄戦で多くの人命とともに文化財が失われました。また、終戦直後には米軍による施設工事や戦後復興に伴う土木工事、1972年の本土復帰以降には、多くの公共事業や民間の諸開発事業が活発に行われ、多くの遺跡が消失しました。しかし、近年では開発を行う際には埋蔵文化財の確認とその後の協議が必要であることが周知され、その保存に向けた適切な手続きが行われるようになりました。そのため埋蔵文化財の緊急発掘調査は増加の一途をたどっており、考古学的見地から検証した成果を沖縄県の歴史・文化の解明や研究に役立てています。

本書は、沖縄県内に所在する埋蔵文化財について最新情報を加えて紹介しています。埋蔵文化財について多くの方々が理解を深め、より一層の遺跡保存と活用のために本書が利用される事を切望いたします。

平成 31 年 3 月
沖縄県教育委員会
教育長 平敷昭人

目次 Contents

まえがき 7

I . 埋蔵文化財

概 要 13

歴史年表・考古編年表 14

遺跡年表 16

発掘調査の手順 18

沖縄本島北部及び周辺離島の文化財 ... 21

沖縄本島中部及び周辺離島の文化財 ... 71

沖縄本島南部及び周辺離島の文化財 ... 113

宮古諸島の文化財 173

八重山諸島の文化財 181

II . 資料

公立博物館・資料館一覧 ... 202

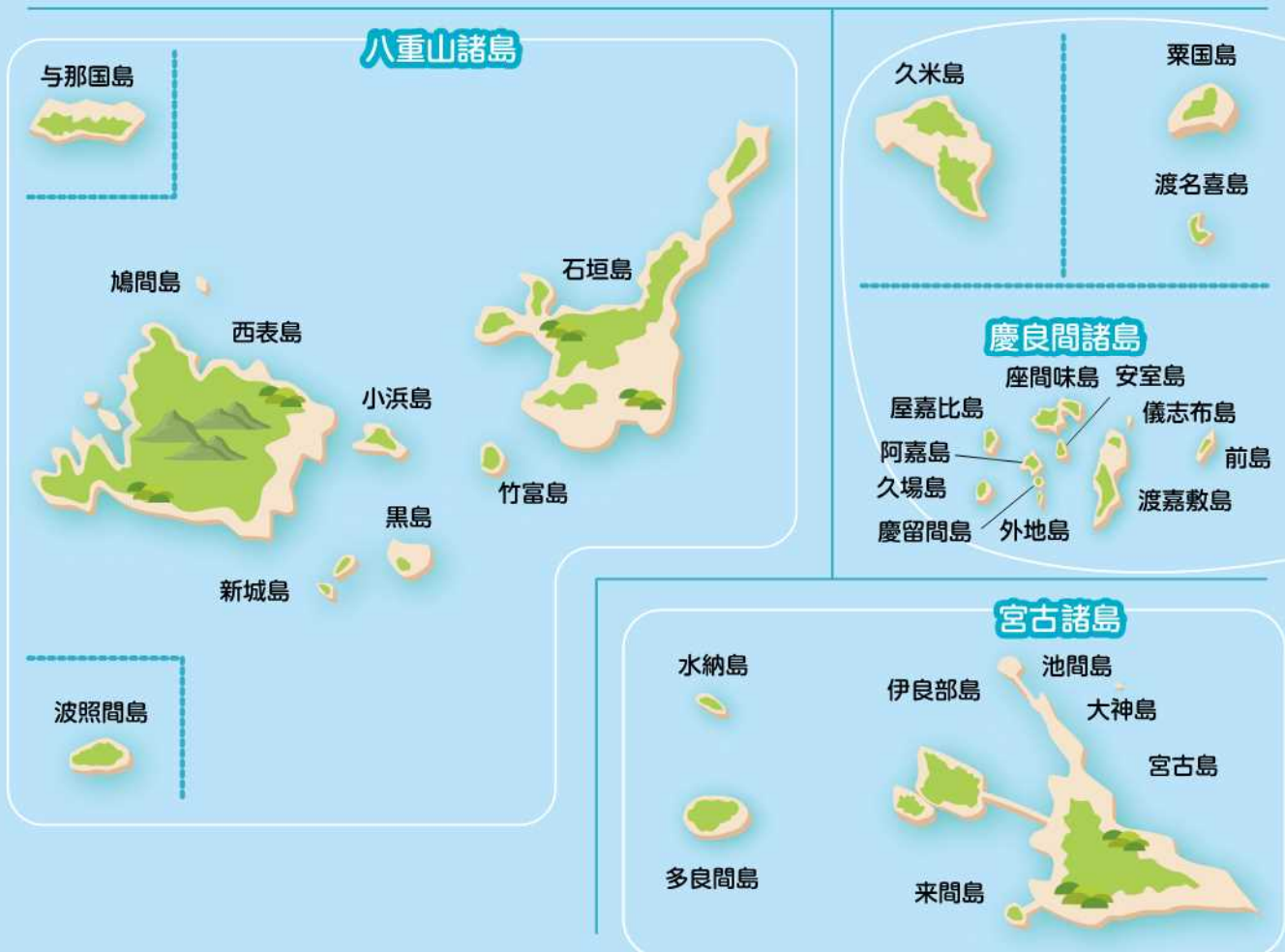
県内公共図書館等一覧 206

用語集 210

掲載遺跡一覧(五十音順) ... 220

文化財の体系図 222

あとがき 224





はん れい 凡例

1. この本は、沖縄県内で発掘された埋蔵文化財について、主に市町村教育委員会の推薦に基づき収録したものです。
2. 文化財について解説したページ(以下「本文」)では、所在市町村および調査機関から提供された画像と解説文に基づき紹介しています。原則として埋蔵文化財の所在する地域毎にまとめています。
3. 掲載遺跡の年表は沖縄県立埋蔵文化財センター作成の「沖縄の歴史年表」を参考に作成しています。
4. 文化財名称のふりがなは一般的な呼称です。また、本文中のふりがなは固有名詞や地名を除き、方言(方言による発音)によるものはカタカナ表記としました。
5. 用字・用語については、常用漢字の使用を原則としましたが、文化財の表現上やむを得ないものについては例外としました。
6. 本文中に出てくる年号は西暦を基本とし、()の中に中国年号(近世琉球まで)及び日本年号(近代から)を表記しました。ただし、近代以前でも一部、琉球年号や日本年号を使用した史書を出典とするものに関しては、琉球年号や日本年号を用いて表記しています。
7. 専門用語等は別枠で用語解説をしています。また、210ページ～219ページの用語集(50音順)にも掲載しています。
8. 本書を作成するにあたり、埋蔵文化財所在市町村および沖縄県立埋蔵文化財センター、沖縄県立博物館・美術館、沖縄県公文書館、沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター、東京大学総合研究博物館の協力をいただきました。
9. 本書の編集は沖縄県教育庁文化財課が担当しました。

まいぞうぶん か ざい がいよう 埋蔵文化財の概要

「埋蔵文化財」とは、「文化財保護法」による法律用語で土地等に埋蔵されている文化財を指し、「考古学」の研究対象としている「遺跡」と、その中にある「遺構」・「遺物」を指します。埋蔵文化財は、地域の歴史や文化の成り立ちを理解する上で欠くことのできない国民共有の貴重な歴史的財産として、文化財保護法により守られています。

「遺跡」は貝塚、古墓、グスク、屋敷跡など、人間と関わりがある文化的な痕跡の全てです。またその中であって、竪穴住居跡や石積み、墓などの土地と密接に関わりがあるものを「遺構」、土器や陶磁器、石器などの道具類、食料とした貝や動物の骨などを「遺物」と呼んでいます。

よく、「恐竜など動物の化石も調査するの？」という質問を受けますが、古い動物の化石を対象とするのは「古生物学」という学問で、人間の生活の痕跡を対象とする考古学とは区別されています。

一般的に埋蔵文化財は、文字通り土地に埋蔵された(埋もれた)文化財を指しますが、グスクの石積みなどのように大部分が地上に見えているものや、沈没船など水中に存在するものも対象としています。人間が道具を使い始める数万年前の旧石器時代から、第二次世界大戦が終結する1945年までの長期間におよびます。

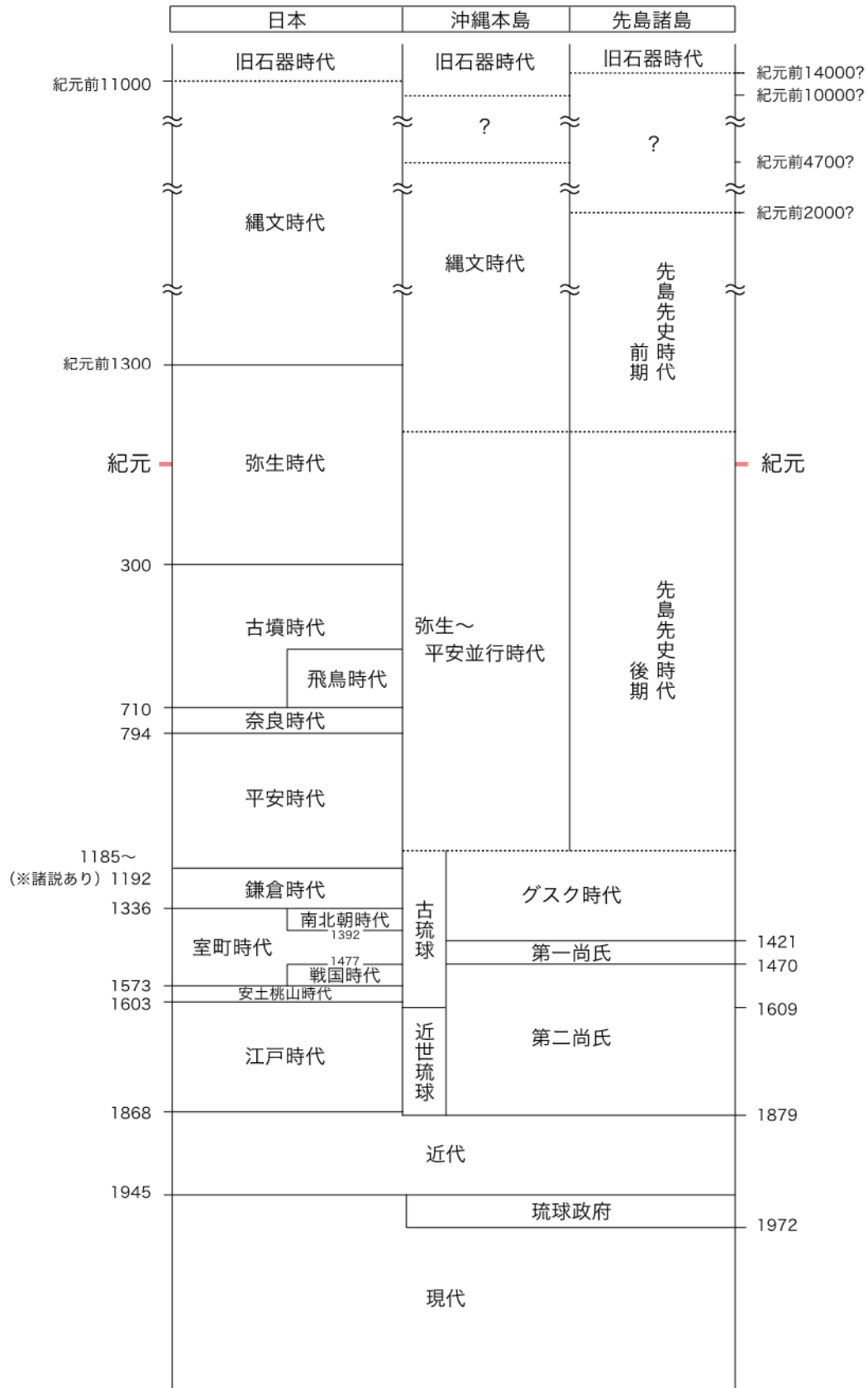
沖縄県では、現時点で約4000か所の埋蔵文化財が確認されており、そのうち1年間で50件前後の発掘調査が、沖縄県教育委員会や市町村の教育委員会、博物館や大学などの調査・研究機関により行われています。

埋蔵文化財を調査するためには、はっきりした目的・理由が必要で、文化財保護法による手続きも必要です。目的として最も多いのが、遺跡のある場所で道路や建物などを建設する際に、工事前に行われる発掘調査です。その他の目的としては首里城跡などの史跡を整備するための遺構確認調査や、考古学研究上、明らかにしたい遺跡を調べる学術調査があります。

発掘調査では、現場で遺構や地層、遺物の出土状況などを記録し、出土遺物を回収します。そして調査が終わると、その情報を図面や表、文章としてまとめる資料整理作業が行われ、発掘調査報告書として調査の成果をまとめた本を発行します。その後、写真や図面などの記録資料と出土遺物を収蔵庫に保管することにより、発掘調査は完了します。

これらの過程で得られた発掘調査成果は、国民共有の貴重な歴史的財産として、博物館などで展示・公開されるほか、考古学や歴史学の研究資料として活用されています。

歴史年表



安里進・土肥直美『沖縄人はどこから来たか—琉球＝沖縄人の起源と成立—』(1999年,ボーダーインク)及び財団法人沖縄県文化振興会史料編集室編『沖縄県史 各論編 第3巻 古琉球』(2010年,沖縄県教育委員会)などを参考に作成した。(破線部----は今後の研究により変わる可能性があります。)

考古編年表（沖縄諸島）

時代区分		土器型式	沖縄諸島発見の九州系土器	その他の編年資料	備考
縄文時代	草創期 紀元前4700年頃				
	早期	野国第4群 ヤブチ式土器 東原式土器	} 爪形文土器	ヤブチ式 (紀元前4860~4580年) 東原式 (紀元前4640~4360年)	
	前期	条痕文土器 室川下層式土器 曾畑式土器 神野A式土器 神野B式土器		条痕文土器 曾畑式土器	曾畑式 (渡具知東原) (紀元前3060~2800年)
	中期	面縄前庭Ⅰ式土器 ← 面縄前庭Ⅱ式土器 ← 面縄前庭Ⅲ式土器 ← 面縄前庭Ⅳ式土器 ← 面縄前庭Ⅴ式土器 ←	旧具志川A式 旧具志川B式 旧具志川C式 旧神野C式 旧面縄前庭式		
	後期	神野D式土器 神野E式土器 伊波式土器 荻堂式土器 大山式土器 室川式土器		伊波式(熱田原) (紀元前1500~1340年) 伊波式(室川) (紀元前1740~1560年)	
	晩期	室川上層式土器 宇佐浜式土器 仲原式土器		入佐式並行 黒川式土器	
	紀元前300年頃				
弥生(平安並行時代)	Ⅰ期	真栄里式土器	板付Ⅱ式土器 亀ノ甲類似土器		弥生前期
	Ⅱ期	具志原式土器	山ノ口式土器		弥生中期
	Ⅲ期	アカジャンガー式土器	免田式土器	アカジャンガー式は 中津野式並行か?	弥生後期
	Ⅳ期	フェンサ下層式土器		類須恵器	古墳時代 ↓ 平安時代

財団法人沖縄県文化振興会史料編集室編

『沖縄県史 各論編 第2巻 考古』(2003年,沖縄県教育委員会)p.23を参考に作成した。

・表中にある年代について1950年を基準年として、放射性炭素年代測定によって算出された年代を、紀元前の表記に直した。

遺跡年表

※1・・・沖縄本島時代区分

※2・・・宮古・八重山諸島時代区分

西暦	前50万～	前2万	前1万	前5,000	前4,000	前3,000	前2,000	前1,500
時代区分 ※1	旧石器時代			縄文時代 早期		縄文時代 前期		縄文時代 中期
時代区分 ※2	旧石器時代			空白期		下田原期		
日本	旧石器時代			縄文時代 早期	縄文時代 前期	縄文時代 中期	縄文時代	
中国	旧石器時代			新石器時代		青銅器時代		
遺跡	白保竿根田原洞穴遺跡(2万8千～1万8千年前) サキタリ洞遺跡(3万7千～1万4千年前)			港川遺跡(2万年前) 港川遺跡(9千年前) サキタリ洞遺跡(9千年前) 藪地洞穴遺跡(9千年前)		白保竿根田原洞穴遺跡(9千年前) 渡具知東原遺跡(7千～5千年前) チヂフチャー洞穴遺跡(7千年前)		船越原遺跡(6千～2千年前) 大堂原貝塚(6千500～2千年前) 藪地洞穴遺跡(6千500～900年前)
遺跡						具志頭グスク(4千500～500年前) 具志川島遺跡群(4千800年前～近代) クマヤー洞穴遺跡(5千年前)		前原遺跡(4千～3千年前) 白保竿根田原洞穴遺跡(4千年前) 港川遺跡(4千年前)
遺跡								嘉門貝塚(3千500～2千年前) 八重山貝塚(3千500年前) 嘉手納貝塚(3千500年前) 摩文仁ハントタ貝塚(3千800～千年前)

西暦	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300
時代区分 ※1	弥生～平安並行時代					グスク時代		
時代区分 ※2	無土器期					新里村期		
日本	古墳	飛鳥	奈良	平安		鎌倉		
中国	隋	唐	五代十国	宋	金		元	
遺跡	宜野座又古島遺跡(千200～330年前)					我謝遺跡(千～300年前) 島ノ前原遺跡(千～600年前) 摩文仁ハントタ原遺跡(千年前)		
遺跡						金武鍾乳洞遺跡(900～800年前) 与那城貝塚(900～800年前) サキタリ洞遺跡(900～800年前) クニンドー遺跡(900～600年前) 伊良波東遺跡(900～600年前) 港川遺跡(900～600年前)		
遺跡						古座間味貝塚(900～600年前) 新里村遺跡(900～600年前) 安和与那川原遺跡(900～400年前) 運天古墓群(900～150年前)		
遺跡						ピロースク遺跡(850～600年前) 糸蒲遺跡(800年前)		
遺跡						吹出原遺跡(800年前) 白保竿根田原洞穴遺跡(800年前)		
遺跡						北谷城(800～600年前) 島仲村遺跡(800～100年前)		
遺跡						ナングスク(ナングシク遺跡群)(750～150年前)		
遺跡						越来グスク(700～500年前) ティミグスク(700～500年前) 大城城跡(700～400年前)		
遺跡						与那原遺跡(700～400年前) 住屋(俗称・尻間)遺跡(700～250年前)		

前1,000	前500	前300	0	後100	後200	500
後期			弥生～平安並行時代			
空白期			無土器期			

- フエンサ城貝塚(千700～900年前)
- 渡口洞穴遺跡(千700～900年前)
- 喜如嘉貝塚(千700～900年前)
- 熱田貝塚(2千～4000年前)
- 白保竿根田原洞穴遺跡(2千年前)**
- チヂフチャー洞穴遺跡(2千年前)
- 宇堅貝塚(2千年前)
- 真栄里貝塚(2千300～1500年前)
- 辺土名兼久遺物散布地(2千300～700年前)
- 清水貝塚(2千300～900年前)
- アンチの上貝塚(2千300～900年前)
- 伊良波東遺跡(2千300～700年前)
- 塩屋貝塚(2千300～2千年前)
- 具志堅貝塚(2千300～2千年前)
- 喜友名東原又バタキ遺跡(2千500～2千年前)
- 阿波連浦貝塚(2千500～2千100年前)
- クマヤー洞穴遺跡(2千500～2千300年前)
- 仲田上遺跡(2千500～2千300年前)
- 港川遺跡(2千500年前)
- 大泊浜貝塚(2千800～900年前)
- 崎枝赤崎貝塚(2千800～900年前)
- アラフ遺跡(2千800～900年前)**
- 宜野座又古島遺跡(3千～2千300年前)
- ナガラ原第三貝塚(3千400～千600年前)
- 古宇利原B遺跡(3千500～2千300年前)
- 熱田原遺跡(3千500～2千500年前)
- 吹出原遺跡(3千500～2千500年前)
- 安和与那川原遺跡(3千500～2千500年前)
- 具志堅貝塚(3千500～2千500年前)
- 伊是名貝塚(3千500～2千500年前)

後期			中期			後期			古墳時代		
弥生時代			弥生時代			弥生時代			古墳時代		
殷	周	春秋戦国	秦	漢	三國	晋	五胡十六国	南北朝	南北朝	南北朝	南北朝

1400	1500	1600	1700	1800	1900
三山	第一尚氏	第二尚氏(前期)	第二尚氏(後期) 近世琉球		沖繩県
中森期				パナリ期	
				近代	戦後

- 前田・経塚近世墓群(1945年)
- チヂフチャー洞穴遺跡(1945年)
- クマヤー洞穴遺跡(1945年)
- 第三二軍司令部津嘉山壕群(1940～1945年)
- 沖繩県営鉄道那覇駅跡(1914～1945年)
- 中城御殿跡(旧県立博物館跡地)(1875～1945年)
- 楚南村跡(近代～1945年)
- 浦添市西海岸の石切場跡(港川地区)(近代)
- 白保竿根田原洞穴遺跡(3000年前)**
- チヂフチャー洞穴遺跡(3000年前)
- 糸蒲遺跡(3000年前)
- 壺屋古窯跡(1682年～近代)
- 中城御殿跡(首里高等学校校内)(1621年以降～近代)
- 湧田古窯跡(1616年～近代)
- 渡地村跡(400～1000年前)
- フラビンチャー墓(近世)
- 前田・経塚近世墓群(近世)
- 奥首の交通遺跡群(近世～近代)
- 糸蒲遺跡(500～4000年前)
- 白保竿根田原洞穴遺跡(5000年前)**
- 湧出海岸陶磁器散布地(550～4000年前)
- 御細工所跡(550年前～1733年)
- 多々名グスク(600～5000年前)
- 中ナグナーワンター遺跡(600～5000年前)
- 真志喜森川原第一遺跡(6000年前)
- 豊見城グスク(1389～1429年)
- クニンドー遺跡(650～2000年前)

南北朝	室町	戦国	安土桃山	江戸	明治	大正	昭和	平成
	明			清			中華民國	中華人民共和國

発掘調査の手順

埋蔵文化財の調査には、予備調査と本調査があります。

1 予備調査

1) 表面踏査

現地踏査(地表面を観察しながら調査対象範囲内を移動する)などにより遺跡の所在を確認します。

2) 試掘調査

小範囲(約2~4m四方の範囲で間隔をあけて)の発掘を行い、埋蔵文化財の有無を確認します。土層の堆積状況や地下の状況を確認し、地図上に掘った部分を示していきます。実際に地下の状況を確認しながら行う調査であり、表面踏査よりも確実な情報が得られます。

3) 確認調査

試掘調査により明らかとなった埋蔵文化財の範囲をより確実に把握します。埋蔵文化財の堆積層の厚みや時期決定の資料となる出土遺物の種類・量・さらに住居跡などの遺構の状況など、埋蔵文化財の保護・開発計画との調整及び本調査のための資料を得る調査です。



2 本調査

予備調査による成果を基に行われる開発予定範囲内の全面調査です。

本調査では発掘予定範囲のすべてについて、埋蔵された遺構(住居跡、墓、石垣などの構築物)や遺物(土器や石器など)を区画にしたがって地層ごとに上の層から順序よく発掘していきます。この場合、遺構や遺物の状況をよく観察し、図面や写真に記録していきます。遺構は動かさずに露出させ、遺物は文化層、出土地点ごとに収納されます。発掘を終了すると遺物は洗浄、注記、分類観察、実測、撮影などの資料整理を行い、遺構とともに図面・写真が作成され、部類統計データが付され、解説の文章がまとめられます。最後に、これらのすべてが編集された「発掘調査報告書」が刊行されて、ひとつの本調査が完了します。

1) 発掘

a. 表土の除去

現在の地面より下には大昔の地表が残っています。土の様子を見ながら遺物が含まれる地層まで、重機で薄く少しずつ慎重に上の土砂を取り除きます。



b. 遺構の確認

遺物の含まれている地層(遺物包含層と呼びます)を取り除き、遺構を探します。その過程で確認された遺物は遺物包含層や出土地点ごとに取り上げていきます。特に遺物がたくさん出土している場所を注意深く見ていくと、土の色が変わっていることに気がつきます。



c. 遺構の調査

土の色が変わっているところを移植ゴテや竹ベラで掘り下げていくと、住居や柱の跡などの輪郭がきれいに出てきます。土器が押しつぶされた状態で見つかることもあり、使用された遺構の時代を決めるカギとなります。



d. 遺構の実測

掘り終わった遺構や地層は、一つ一つ慎重に写真を撮り、図面に記録していきます。通常は、人の手で遺構の大きさ・幅・深さなどを測りますが、ドローンでの空撮やコンピュータなどを使用して測量することもあります。この作業で屋外の発掘作業は終了します。



2)資料整理

a.遺物洗浄

掘り出した遺物は、ブラシやハケで水洗いして土を落とし、形や文様がよく見えるようにします。



b.注記

水洗いして乾燥させた遺物一つずつにどの遺跡か、どの遺構か、どの層位から見つかったのか情報の一つ一つ書き込んで、遺物を整理します。



c.分類

遺物は材質・形によって分類されます。



d.接合・復元

出土した遺物は、使われなくなり捨てられた物がほとんどで割れたものや欠けたものが多く、あちこちに散らばっています。バラバラな同じ遺物の破片同士をパズルのように組み立てて、できるだけ元の形に復元します。また、接合作業でどうしても破片が足りない部分は、石膏などで補って形がわかるようにします。



e.実測

報告書に載せる遺物について、大きさや形、文様などを細かく観察して実測図を作成します。土器は文様の種類や付け方、粘土の積み上げ方を、石器は形や使用した痕跡、打ち欠いた順番など実物を見ないとわからない情報に注意して記録します。



g.写真撮影

実測が終了した遺物の写真撮影をします。



h.編集

実測図をデジタル化した後、写真等と合わせてレイアウト(配置)をします。



i.解説文を書く

作成した資料をもとに、遺跡の概要や出土品について原稿を書いています。



j.報告書の刊行

発掘調査を行った遺跡の記録は調査報告書にまとめられ、刊行されると遺跡の発掘調査は終了となります。報告書には遺構や遺物の出土状況と出土した遺物の分析結果、実測図・写真など調査の成果が盛り込まれます。発掘調査報告書は沖縄県立埋蔵文化財センターの図書室や沖縄県立図書館、各市町村立図書館でも閲覧可能です。



